

## <イベントレポート>

報道関係者各位

# 青空の下で、シーキューブ就農支援「子牛贈呈式」を開催！ 道産食材を使用したクッキーの支援金で、新規就農者4名に子牛4頭を贈呈

洋菓子ブランド「C<sup>3</sup>(シーキューブ)」を展開する株式会社シュゼット(本社:兵庫県西宮市、代表取締役社長:蟻田剛毅)は、北海道の酪農家のサポートを目的とした支援金付き商品『カウカウクッキー』(1,080円)を2015年9月1日(火)より新千歳空港・土産ショップならびに全国のシーキューブ27店舗ならびにオンラインショップにて販売をいたしました。

“お菓子で幸せなつながり”を理念とする「シーキューブ」は、ブランド名の由来である3つの「C」、コーヒー・チーズ・カカオを活かしたお菓子を世界中から厳選した素材で創り続けています。なかでも乳製品は、北海道産のバターやチーズ等、良質な乳製品を使用しています。しかしながら、毎年3%ずつ減少を続ける酪農家の現状(農林水産省調べ:平成26年度)に危機感を持ち、就農支援金付きの商品を開発しました。

本日10月7日(金)、商品の売上金額の3%およびシュゼットによる寄付により、JA浜中町を通じて新規就農者に子牛を4頭贈呈するシーキューブ就農支援「子牛贈呈式」を行いました。

株式会社シュゼット 代表取締役社長 蟻田 剛毅は「今回のような試みができましたことを大変嬉しく思っております。浜中町とは良質なバターを探し求めていた約25年前の父の代からともお世話になっております。乳をとりまく環境が厳しいと伺っている中、新しい牛、新しく農業につかれる方の確保が大切だと私たちなりに感じております。これを始まりとして、末長く続く活動にしていきたいと思っています。」とご挨拶をされました。また、JA浜中町 代表理事専務 兼 浜中町就農者研修牧場代表取締役 高岡 透氏は、「今日この機会をいただき、ありがとうございます。平成10年代には212戸いた生乳生産者も現在では173戸と減っておりますが、その中の41戸が新規就農者となっております。希望を持って酪農に勤しめるよう、私たちも支えていきたいと思います。」とコメントしました。

ご挨拶のあとは、株式会社シュゼットより新規就農者4名それぞれに生後3ヶ月の子牛を贈呈しました。新規就農者の沼田 英晃氏は「今年就農したばかりの新人ですが、皆様のご期待に応えられるように頑張っていきます。この子の名前は嫁と同じ『ユミコ』にしました。良く食べて、良く寝て、良く働く、そんな嫁のような牛に育ててもらいたいです。」と名前に込めた想いを語りました。また、新規就農者の安江 暁宣氏も子牛の名前を嫁と同じ『ナオコ』と命名し、「嫁のように毎日元気に過ごしてもらえたらと思っています。良質な牛乳を出荷できるよう私たちも頑張ります。」とコメントしました。新規就農者の水本 康洋氏は「この子が牧場の希望の光となるように『ヒカリ』と名付けました。ヒカリの子どもや孫ができるよう大切に育てていきます。」と意気込みを語り、新規就農者の百々 駿祐氏は子供たちが決めたという『ユイナ』と命名し、「このような機会を設けていただきありがとうございました。」と株式会社シュゼットへ感謝の想いを伝えました。



新規就農者 沼田 英晃氏

新規就農者 安江 暁宣氏

新規就農者 水本 康洋氏

新規就農者 百々 駿祐氏

【実施概要】

タイトル: シーキューブ就農支援「子牛贈呈式」  
 日時: 2016年10月7日(金)10:00 ~ 10:40  
 会場: 浜中町就農者研修牧場 (北海道厚岸郡浜中町茶内西 26 番地)  
 登壇者: ○新規就農者  
 沼田 英晃(ぬまた ひであき)氏、安江 暁宣(やすえ あきのり)氏、  
 水本 康洋(みずもと やすひろ)氏、百々 駿祐(とど しゅんすけ)氏  
 ○JA 浜中町  
 代表理事専務 兼 浜中町就農者研修牧場代表取締役 高岡 透(たかおか とおる)氏、  
 浜中町就農者研修牧場場長 永洞 孝二(ながほら こうじ)氏、  
 浜中町農協 農課係長 西島 宏(にしじま ひろし)氏  
 ○株式会社シュゼット  
 代表取締役社長 蟻田 剛毅(ありた ごうき)、  
 C°営業企画課 課長 今村 恵(いまむら めぐみ)、管理部 部長 林田大輔(はやしだ だيسけ)、  
 C°流通店舗部 東日本清水ブロック ブロック担当長 清水 由紀子(しみず ゆきこ)、  
 管理部 教育・人事・総務ディビジョン 総務課 善部 友萌(ぜんぶ ともえ)

■新規酪農者プロフィール

◎沼田 英晃(ぬまた ひであき) 43歳 埼玉県出身 妻46、長男8、次男6

H23.4~(有)浜中町就農者研修牧場で研修  
 H28.4~新規就農

就農に至った経緯: 埼玉県で営業職を経験。酪農の魅力に気付き、一念発起し新規就農者へ。妻も提案を受けた当初は戸惑いを隠せなかったものの、北海道の良さを夫から聞き続け、移住を決意。  
 就農して良かったこと: 冬が明けた春先、その年の初めて放牧の際に、普段ゆっくりした動作しかしない牛がすごい勢いで外に駆け出す姿を見たときに、驚きと感動を感じた。妻にとって良かったことは、前職では始発で出勤し終電で帰宅するという生活をしてきた夫と、今はずっと一緒に仕事をしており、その中で改めてとても頼りがいがあることにも気が付けたこと。  
 就農して大変だったこと: 妻は、最初牛の大きさにビックリした。うまく扱えるか不安になった。  
 これからの目標: 家族をしっかりと養い、幸せにできるような牧場にしたい。

◎安江 暁宣(やすえ あきのり) 38歳 神奈川県出身 妻35

H19.10~(有)浜中町酪農ヘルパー組合  
 H27.4~(有)浜中町就農者研修牧場  
 H28.4~新規就農

就農に至った経緯: サラリーマンから酪農家のフォローを行う酪農ヘルパー(酪農家の代わりにその日1日仕事を担当)を経て、新規就農者へ。  
 就農して良かったこと: 生まれたときは病弱だった子牛が今では元気いっぱいになっていること。  
 就農して大変だったこと: 生き物が相手の仕事で、想像しないことが毎日起こること。  
 これからの目標: 自分たちがきっちりと管理できる規模の牧場にしたい。

◎水本 康洋(みずもと やすひろ) 33歳 北海道出身 妻33

H26.4~(有)浜中町就農者研修牧場  
 H28.4~新規就農

就農に至った経緯: 両親が隣町の大規模牧場を経営しており、幼少期から牧場の環境に慣れ親しんでいたことから、両親の経営する会社に就職。しかし働いていくうちに、指示をする立場や均衡を保つ会社という体質から自分の目指すものが表現できないもどかしさを感じるようになり、自分の理想を実現してみたいという気持ちが強くなり独立。  
 就農して良かったこと: 始めたばかりなので、うまくいかない部分があるが、それをひとつひとつ達成した時にやりがいを感じる。  
 就農して大変だったこと: 生き物が相手なので先が読めないこと。  
 これからの目標: 牛も、自分の家族もいつも幸せであるような牧場にしたい。

◎百々 駿祐(とど しゅんすけ) 31歳 北海道出身 妻31、長女8、長男6、次男3

H26.4~町内牧場研修  
 H28.4~新規就農

就農に至った経緯: 浜中町出身で両親も酪農をしており、幼少のころから牛と触れ合うことが好きだったので、自然と酪農の道に進むことになった。  
 就農して良かったこと: 牛の飼料など自分の思い描いていたことができること。自分で初めて草を取り、草を与えて、それが牛乳になって出てきたこと。  
 就農して大変だったこと: 病気など、想定できないことが起きたとき。  
 これからの目標: 常に目標をもって、牛も健康に、家族も幸せにしたい。

## ■浜中町の酪農について

### 1) 浜中町の酪農について

浜中町における酪農は、昭和 4 年にホルスタイン種乳用牛を導入し、茶内共同集乳所を操業したことからはじまりました。その後、大凶作により穀物中心の農業から、家畜中心とした農業に転換したことも大きく影響しています。昭和 30 年頃までは、生乳は輸送缶に入れられ軌道や馬車で工場に運搬していましたが、トラックによる輸送缶の庭先集荷に変わり、昭和 48 年以降は、各戸にバルククーラーも導入され、ミルクローリーでの工場搬入となりました。浜中町は、年間を通して気温が低く涼しいため、暑さが苦手なホルスタイン種を飼養するのに適しています。また、全町で 15,000ha という広大な牧草地があるためエサとなる十分な量の牧草が確保できることも酪農がしやすい理由です。

<浜中町農協への生乳出荷戸数 173 戸(H28.7.31 現在)>  
<H27 年度(H27.3~H28.2)生産量 1 日あたり約 277t (年間 101,348t)>

S23 年 浜中村主畜農業協同組合設立(浜中町農協の前身)  
S56 年 酪農技術センター、雪印乳業茶内工場閉鎖  
S57 年 タカナシ乳業北海道工場操業開始  
H 3 年 浜中町就農者研修牧場設立  
H16 年 研修牧場を有限会社として法人化  
H17 年 有限会社コープはまなか設立  
H21 年 株式会社酪農王国設立  
H23 年 株式会社若牛の里設立

### 2) 浜中町の課題と現在の取り組みについて

浜中町の生乳生産戸数は減少してきていますが、生産量は増加しています。現在では、新規就農とともに、酪農家子弟による後継も増えているため、規模拡大を目指す方も多く、そのための労働力の確保が課題です。搾乳ロボットや大型機械化により労力の軽減は進んでいるものの、従業員や後継者の結婚、酪農ヘルパーなどの人材確保は大きな課題となっています。それにともない、浜中町では新規就農者を継続的に確保するために、農業への志のある方の募集活動に取り組んでいます。年間 10 回程度の就農相談イベントへ参加するとともに、都市圏の農業系大学、農業高校、農業系専門学校等への説明を行い、WEB サイトや、フェイスブックの活用も合わせ、常に情報発信を行っています。

H 元年	240 戸	67,200t	新規就農者数(累計)	5 戸
H10 年	212 戸	84,998t		13 戸
H20 年	196 戸	94,087t		25 戸
H27 年	180 戸	101,348t		41 戸

### 3) 今後の浜中町の酪農について

浜中町は酪農業と漁業が基幹産業の町です。町民のほとんどがそのいずれかに関わって生活をしています。それぞれの産業についてだけでなく、様々な業種が基幹産業に関わっています。つまり、酪農や漁業が維持されなければ、町は存続できなくなるということです。産業の維持には人の力は必要不可欠です。町外からの人の受け入れだけでなく、町内の若者が浜中で働いていく環境をつくっていく必要があります。浜中の酪農は当然、若い世代に継承され維持発展してほしいと願いますが、酪農だけでなく他の産業もしっかり維持されなくてはなりません。

## 【参考】北海道の酪農について

<北海道の生乳出荷戸数 5,926 戸(H28.2) ※前年より 183 戸減少>  
<H27 年度生産量 1 日あたり約 10,680t (年間 3,897 千 t)>

生乳出荷戸数:  
H2 年 12,940 戸 → H7 年 10,853 戸 → H12 年 9,279 戸  
(※以降毎年約 200 戸が減少)  
H27 年 6,129 戸 → H28 年 5,926 戸

## ■シーキューブ就農支援商品『カウカウクッキー』について

洋菓子ブランド「シーキューブ」を展開する株式会社シュゼット(本社:兵庫県西宮市、代表取締役社長:蟻田剛毅)は、北海道の酪農家のサポートを目的とした支援金付き商品『カウカウクッキー』(1,080円)を2015年9月1日(火)より新千歳空港・土産ショップ内限定で販売を開始しました。現在は、全国のシーキューブ27店舗ならびにオンラインショップへ販路を拡大しています。

### お菓子を通じて 酪農家のサポーターになろう!

“お菓子で幸せなつながりを”を理念とする「シーキューブ」は、ブランド名の由来である3つの「C」、コーヒー・チーズ・カカオを活かしたお菓子を世界中から厳選した素材で創り続けています。なかでも乳製品は、北海道産のバターやチーズ等、良質な乳製品を使用しています。しかしながら、毎年3%ずつ減少を続ける酪農家の現状(農林水産省調べ:平成26年度)に危機感を持ち、就農支援金付きの商品を開発。商品の売上金額の3%をJA浜中町に寄付をし、これから酪農を始める方の初期投資や、酪農を維持していくための資金にさせていただきます。

### 道産の乳製品を使用した お土産にもぴったりのクッキー

新千歳空港・土産ショップ内限定で販売する『カウカウクッキー』は、ミルク味とチョコレート味のラウンド型のクッキーを1袋に3個ずつ、計8袋が入った、お土産品にもぴったりの商品です。ミルク味には北海道産のバターをたっぷり使用し、チョコレート味にはフランス産の高級チョコレート2種をブレンドして使用。素材の風味と香りが強く立ちながらも、サクサク&ホロホロした食感が楽しめます。パッケージは牛型のデザインを採用し、鼻輪を引っ張ると箱が開いて商品を取り出せるユニークな仕かけになっています。



「カウカウクッキー」(1,080円)

「シーキューブ」では、北海道・浜中町に広がる霧多布湿原のナショナルトラスト運動に協賛するなど、豊かな自然が生み出す、変わらない美味しさを守るため、今後もお菓子を通じた継続的な地域貢献に努めてまいります。

- 【商品名称】 カウカウクッキー  
【販売日】 2015年9月1日(火) 【販売価格】 1,080円(税込価格)  
【内容量】 8袋入り。1袋にミルククッキー3個とチョコレートクッキー3個の計6個入り。  
【販売店舗】 新千歳空港 土産ショップ「丸井今井きたキッチン」および「トリコト by ヤマサンフジヤ」内、  
全国の「シーキューブ」計27店舗  
シーキューブ 公式オンラインショップ (<https://www.suzette-shop.jp/shop/c/cC3>)  
【お問合せ】 お客様相談室 TEL:0120-917-225(平日9時~17時) HP:<https://www.suzette-shop.jp/c3>

<ご参考> 株式会社シュゼットおよび「シーキューブ」について

1969年、兵庫県芦屋市で創業。喫茶、生菓子の販売から事業を開始し、現在は百貨店をはじめ幅広い販売チャネルを持つ「アンリ・シャルパンティエ」(87店舗)と、カジュアルなラインナップで駅ナカ・駅チカをリードする「シーキューブ」(28店舗)の2つの洋菓子ブランドを展開。製造販売のほか、カフェ事業やOEM生産など、さまざまな事業を推進中。「シーキューブ」のブランド名は主力商品「ティラミス」の素材であるコーヒー・チーズ・カカオの3つの“C”に由来。北海道の良質な小麦や乳製品、世界中から選り抜いた食材など、こだわりのある素材・技術・創造力を駆使したお菓子を提供しています。